

# 2つの放物線の共通接線について

しづや つとむ  
渋谷 勤

## 0. はじめに

放物線の接線の方程式は、微分を履修すれば求めることができます。あるいは、定点が与えられていれば判別式を使った解法もあります。ここでは、2つの異なる(一致しない)放物線の共通接線について考えてみましょう。

## 1. 存在条件

2つの放物線

$$y = ax^2 \quad \dots\dots ①$$

$$y = b(x-p)^2 + q \quad \dots\dots ②$$

の共通接線の本数を求める。

①上の点  $(t, at^2)$  における接線の方程式は、

$$y = 2atx - at^2 \quad \dots\dots ③$$

③と②から  $y$  を消去して

$$bx^2 - 2(bp+at)x + bp^2 + q + at^2 = 0$$

$$\frac{D}{4} = (bp+at)^2 - b(bp^2 + q + at^2)$$

$$= a(a-b)t^2 + 2abpt - bq$$

$\frac{D}{4} = 0$  を満たす実数解の個数が共通接線の本数である。

$a(a-b)t^2 + 2abpt - bq = 0 \quad \dots\dots ④$  について

(1)  $a=b$  のとき

$$④ \text{ は } 2a^2pt - aq = 0$$

$$a(2apt - q) = 0$$

$$a \neq 0 \text{ より } 2apt = q$$

$p=0$  のとき  $q=0$  であれば、任意の実数が解となる。(このとき、①、②は一致する.)

$p=0$  のとき  $q \neq 0$  であれば、実数解は存在しない。

$p \neq 0$  のとき  $t = \frac{q}{2ap}$  となり、実数解は1個である。

(2)  $a \neq b$  のとき ④において

$$\frac{D}{4} = (abp)^2 - a(a-b)(-bq)$$

$$= ab\{abp^2 + q(a-b)\} = a^2b^2\left\{p^2 + \frac{q(a-b)}{ab}\right\}$$

$$\text{よって } \frac{D}{4} = 0 \iff q = -\frac{ab}{b-a}p^2$$

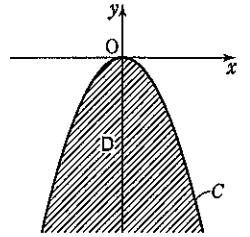
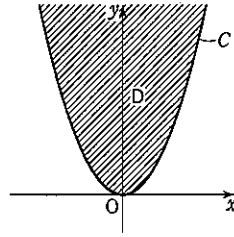
$$\frac{D}{4} > 0 \iff p^2 > \frac{b-a}{ab}q$$

$$\frac{D}{4} < 0 \iff p^2 < \frac{b-a}{ab}q$$

ここで放物線  $C: y = \frac{ab}{b-a}x^2$  について、 $C$  を境界とする凸領域(境界の  $C$  を含まない)を  $D$  とする。

$\frac{ab}{b-a} > 0$  のとき

$\frac{ab}{b-a} < 0$  のとき



以上をまとめると、次のようになります。

2つの放物線

$$y = ax^2 \quad \dots\dots ①$$

$$y = b(x-p)^2 + q \quad \dots\dots ②$$

の共通接線の本数は

$a=b$  のとき、

$p=q=0$  ならば無限本(①、②は一致)

$p=0, q \neq 0$  ならば0本

$p \neq 0$  ならば任意の  $q$  について1本

$a \neq b$  のとき、②の頂点  $P(p, q)$  について

$P \in C$  のとき 1本

$P \in D$  のとき 0本

$P \in C \cup D$  のとき 2本

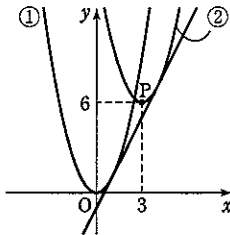
## 2. 共通接線を求める

問1. 2つの放物線

$$y=x^2 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$y=(x-3)^2+6 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

の共通接線の方程式を求めよ。



[解法1] ①上の点  $(t, t^2)$  における接線の方程式は、

$$y=2tx-t^2 \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

これと②より、 $y$  を消去して

$$x^2-2(t+3)x+t^2+15=0$$

$$\frac{D}{4}=0 \text{ より } (t+3)^2-(t^2+15)=0$$

$$t=1$$

これを③に代入して、求める接線の方程式は

$$y=2x-1$$

[解法2] ①, ②の  $x^2$  の係数は等しいので、接線の傾きは直線 OP の傾きと等しくなる。

求める接線を  $y=2x+b$  とおく。これと①から  $y$  を消去し、 $D=0$  とすると  $b$  の値が求まる。

$$x^2-2x-b=0$$

$$\frac{D}{4}=0 \text{ より } b=-1$$

ゆえに、接線の方程式は

$$y=2x-1$$

では、次の問題はどうか。

問2. 2つの放物線

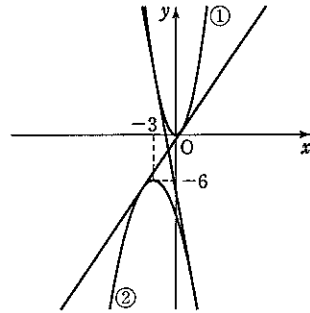
$$y=x^2 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$y=-\frac{1}{2}(x+3)^2-6 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

の共通接線の方程式を求めよ。

この場合には2つの放物線が合同ではないので、

問1. [解法2]のようにはいきません。しかも、共通接線は2本存在します。



[解法1] ①上の点  $(t, t^2)$  における接線の方程式は、

$$y=2tx-t^2 \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

これと②より、 $y$  を消去して

$$x^2+2(2t+3)x+21-2t^2=0$$

$$\frac{D}{4}=0 \text{ より } (2t+3)^2-(21-2t^2)=0$$

$$t^2+2t-2=0$$

$$t=-1\pm\sqrt{3}$$

これを③に代入して、求める共通接線の方程式は

$$y=2(-1\pm\sqrt{3})x-4\pm 2\sqrt{3}$$

すべての放物線は相似です。三角形と同様に相似を考えていくと、放物線①と②の相似比は  $1:2$  となります。この相似比を利用すると、次のような計算で求まります。

[解法2] 2つの放物線①, ②の頂点  $O(0, 0)$ ,

$P(-3, -6)$  を  $1:2$  の比に内分する点  $Q$  は

$$Q(-1, -2)$$

この点を通り、傾き  $m$  の直線は

$$y=mx+m-2$$

これと①より、 $y$  を消去して

$$x^2-mx-m+2=0$$

$$D=0 \text{ より } m^2+4m-8=0$$

$$m=-2\pm 2\sqrt{3}$$

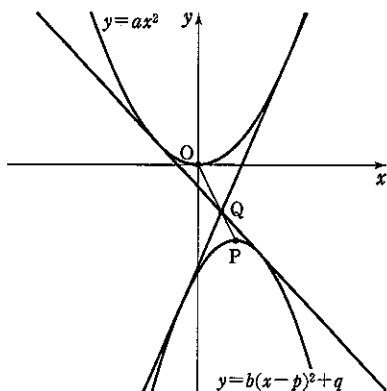
ゆえに、共通接線の方程式は

$$y=2(-1\pm\sqrt{3})x-4\pm 2\sqrt{3}$$

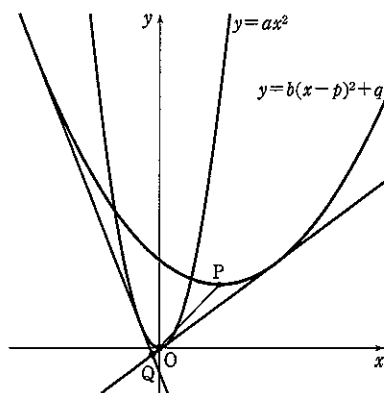
問1, 問2ともに [解答2] は、微分を知らない生徒でも理解できます。更に、次のことが成り立ちます。

[1]  $y=ax^2, y=b(x-p)^2+q$   
 ( $a>0, b<0$  のとき)

共通接線の交点Qは  
 2点O, Pを  $(-b):a$  の比に内分する点.



[4]  $y=ax^2, y=b(x-p)^2+q$   
 ( $a>b>0, p>0, q>0$  のとき)

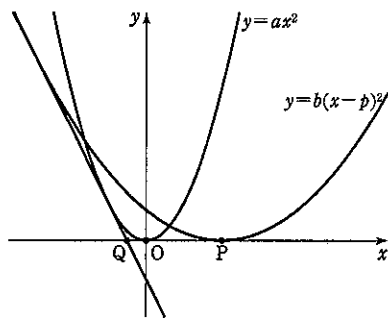


これらを三角形の相似と同様に考えると、点Qは「相似の中心」になっています。

ここで、 $m:n$  の比に分けるとは  
 $m>0, n>0$  の場合は、 $m:n$  の比に内分すること、 $m, n$  が異符号の場合は、 $|m|:|n|$  の比に外分することであると考えると、一般に次のことが成り立つ。

次の[2], [3], [4] のどの場合も共通接線の交点Qは2点O, Pを  $b:a$  の比に外分する点.

[2]  $y=ax^2, y=b(x-p)^2$   
 ( $a>b>0, p\neq 0$  のとき)



2つの異なる放物線

$$C_a: y=a(x-p_1)^2+q_1 \dots\dots ①$$

$$C_b: y=b(x-p_2)^2+q_2 \dots\dots ②$$

が2本の共通接線をもつとき、これらの交点は、 $C_a, C_b$  の頂点を  $(-b):a$  に分ける点である。

[証明] 共通接線の交点を  $(s, t)$  とおく。この点を通り、傾き  $m$  の直線は

$$y=m(x-s)+t \dots\dots ③$$

これと①より  $y$  を消去して

$$ax^2-(2ap_1+m)x+ap_1^2+q_1+ms-t=0$$

$D=0$  より

$$(2ap_1+m)^2-4a(ap_1^2+q_1+ms-t)=0$$

$$m^2+4a(p_1-s)m+4a(t-q_1)=0 \dots\dots ④$$

同様に、③と②より

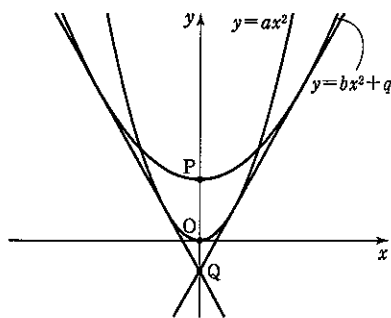
$$m^2+4b(p_2-s)m+4b(t-q_2)=0 \dots\dots ⑤$$

$m$  についての2次方程式④、⑤の解が一致するので、

$$a(p_1-s)=b(p_2-s) \text{ かつ } a(t-q_1)=b(t-q_2)$$

$a=b$  のときは、共通接線はあっても1本だけなので、 $a\neq b$  である。よって、

[3]  $y=ax^2, y=bx^2+q$   
 ( $a>b>0, q>0$  のとき)



$$s = \frac{ap_1 - bp_2}{-b+a}, \quad t = \frac{aq_1 - bq_2}{-b+a}$$

(証明終)

では、共通接線が1本のときはどうでしょうか。  
 $a \neq b$  のとき、共通接線が1本の場合は次の2通りです。



この接点を  $(s, t)$  とおいても、前記の [証明] が成り立つので、この場合、 $C_a, C_b$  の頂点を  $(-b) : a$  に分ける点は、接点になります。

《参考文献》

[1] 四訂版 数学 I : 数研出版

(日本大学習志野高等学校)

発行所 数研出版株式会社

東京本社	〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-12-11	TEL 03(3265)0811 (代表)
関西本社	〒604-0867 京都市中京区烏丸丸太町西入ル	TEL 075(231)0161 (代表)
さいたま支局	〒336-0018 さいたま市南本町 1-16-9-4F	
札幌支店	〒060-0052 札幌市中央区南 2 条東 2 丁目 9-8 大都ビル	TEL 011(261)1723
仙台支店	〒980-0022 仙台市青葉区五橋 2-7-9	TEL 022(215)6933
横浜支店	〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-14-27 第一生命第 2 ビル	
名古屋支店	〒461-0004 名古屋市東区葵 3-15-31 住友生命千種ビル	TEL 052(937)3423
広島支店	〒730-0813 広島市中区住吉町 9-9 中木ビル	TEL 082(243)6453
福岡支店	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南 1-2-3 住友博多駅前ビル	TEL 092(411)4245

印刷 寿印刷株式会社

010401

♻️ 本書の中紙には再生紙を使用しています